極点測定から結晶方位

2017年04月17日 http://helpertex.sakura.ne.jp *HelperTex Office*

高成形性アルミニウム材料 WO 2007111002 A1

- 要約書
- 結晶方位の異なる結晶粒で構成され、前記結晶粒が、Cube 方位結晶粒、Brass方位結晶粒、Copper方位結晶粒、及び残 部がその他の結晶方位結晶粒からなり、Cube方位の結晶粒の 占有率が0.3から0.7、Brass方位の結晶粒の占有率が0.1 から0.5、Copper方位の結晶粒の占有率が0.2以下で、且つ これら結晶方位の総占有率が0.4から1.0であり、残部がそ の他の結晶方位の結晶粒であるアルミニウム材料、及びそれを 用いた自動車部材。

公告番号 公開タイブ 出願番号 公開日 出願日 優先日 ⑦	WO2007111002 A1 出願 PCT/JP2006/323861 2007年10月4日 2006年11月29日 2006年3月29日	結晶粒、結晶方位、占有率 Cube, Brass, Copper方位	
発明者	Hideo Morimoto		
特許出願人	Hideo Morimoto, The Furukawa Electric Co., Ltd.	異方性と材料特性	2

圧延板 {HKL}<UVW> (hkl)[uvw]



Cube

Brass





集合組織の表現

逆極点図(θ/θ scanによるプロファイル測定)

結晶座標系を基準で材料方位の分布を表現

<hkl>

正極点図(極点測定)

材料座標系(ND-RD)を基準で結晶方位の分布を表現

極点図

{hkl}<uvw>

ODF(複数の極点図から解析)

結晶方位の分布

{hkl}<uvw>







ODF図





	表 1.8	.1 結晶系とブラベ	一格子
結晶系	結晶軸	ブラベー 格子と記号	特徴を表わす図形
立 方 晶 系 (cubic)	a=b=c $\alpha=\beta=\gamma=90^{\circ}$	単純 P 体心 I 面心 F	
王 方 品 系 (tetragonal)	$a=b\neq c$ $\alpha=\beta=\gamma=90^{\circ}$	単純 P 体心 I	
斜 方 晶 系 (orthorhombic)	$\substack{\substack{\alpha \neq b \neq c \\ \alpha = \beta = \gamma = 90^\circ}}$	単純 P 体心 I 底心 C 面心 F	
菱面晶系 (rhombohedral or trigonal)	a=b=c $\alpha=\beta=\gamma\neq90^{\circ}$	単純 P	
六 方 晶 系 (hexagonal)	$\begin{array}{l} a = b \neq c \\ \alpha = \beta = 90^{\circ} \\ \gamma = 120^{\circ} \end{array}$	単純 P	
単 斜 晶 系 (monoclinic)	$\substack{\substack{ \alpha \neq b \neq c \\ \alpha = \gamma = 90^\circ \neq \beta }}$	単純 P 成心 C	
三 斜 晶 系 (triclinic)	$a \neq b \neq c$ $a \neq \beta \neq \gamma \neq 90^{\circ}$	単載 P	





斜方格子

単純(P) 六方格子











(0001)





u,v,w :格子点座標 [uvw]:原点と格子点を結んだ方向を示す指数 <uvw>:同型の晶帯軸の指数 (hkl) :結晶面の指数 hkl :逆格子の座標、または反射X線の指数 {hkl} :同型の面の指数



図1.8.6 格子中の方向(方向指数)

結晶による回折現象(θ/θscan測定)

ブラッグの公式 2d sinθ = nλ





 $1/d^2 = (h^2 + k^2 + l^2)/a^2(Al : a = 4.0494 \text{ Å})$

Moターゲット:λ=0. 70930Å Cuターゲット:λ=1. 54056Å Coターゲット:λ=1. 78897Å

波長が一定なら、のが小さいとdは大きくなる。

(hkl)	I(f)	d(Å)	2 <i>θ</i> (Mo)	2 <i>θ</i> (Cu)	2θ(Co)
(111)	100.0	2.338	17.450	38.472	44.988
(200)	47.0	2.024	20.183	44.738	52.455
(220)	22.0	1.431	28.699	65.133	77.376
(311)	24.0	1.221	33.771	72.227	94.207
(222)	7.0	1.169	35.321	82.435	99.844
(400)	2.0	1.012	41.012	41.012	124.142
(331)	8.0	0.929	44.890	44.890	148.710
(420)	8.0	0.906	46.116	46.116	162.108
(422)	8.0	0.627	50.814	30.814	

θ/θscanによる逆極点(random試料との強度比率)

アルミニウム(合金状態と圧延が異なる)





InverseAllソフトウェアでrandom試料との強度比計算

🍰 TextDis	splay 1.10S								
File Help									
Randomm	ode Standard	ization Integra	ition						
	[111]	[200]	[220]	[311]	[222]	[400]	[331]	[420]	[422]
A-H18	0.435	1.053	1.446	2.532	0.234	0.811	0.519	0.965	1.65
A-T4	0.356	3.261	0.468	0.643	0.188	4.457	0.48	0.836	0.162
B-H18	0.52	0.968	1.942	1.545	0.572	0.781	1.289	1.1	1.321
B-0	0.5	2.535	0.589	0.879	0.512	3.445	0.592	0.768	0.811
C-Bach	0.111	2.835	1.427	0.953	0.0070	3.455	0.562	0.891	0.9
C-CAL	0.458	2.648	0.962	0.695	0.456	2.987	0.568	0.832	0.491
D-H14	0.184	1.438	1.489	2.911	0.014	1.428	0.43	1.303	0.99
D-H18	0.173	0.715	2.325	3.48	0.068	0.32	0.258	0.791	1.456
D-0	0.0040	3.922	0.594	0.752	-0.0090	4.753	0.23	0.587	0.485

-	A	В	С	D	E	F	G	Н	I	J	
1	Randommo	de Standarc	lization Inte	gration							
2		[111]	[200]	[220]	[311]	[222]	[400]	[331]	[420]	[422]	
З	A-H18	0.435	1.053	1.446	2.532	0.234	0.811	0.519	0.965	1.65	
4	A-T4	0.356	3.261	0.468	0.643	0.188	4.457	0.48	0.836	0.162	
5	B-H18	0.52	0.968	1.942	1.545	0.572	0.781	1.289	1.1	1.321	
6	B-0	0.5	2.535	0.589	0.879	0.512	3.445	0.592	0.768	0.811	
7	C-Bach	0.111	2.835	1.427	0.953	0.007	3.455	0.562	0.891	0.9	
8	C-CAL	0.458	2.648	0.962	0.695	0.456	2.987	0.568	0.832	0.491	
9	D-H1 4	0.184	1.438	1.489	2.911	0.014	1.428	0.43	1.303	0.99	
10	D-H18	0.173	0.715	2.325	3.48	0.068	0.32	0.258	0.791	1.456	
11	D-0	0.004	3.922	0.594	0.752	-0.009	4.753	0.23	0.587	0.485	

ProfiletoDivisionProfileソフトウエアで分割データ



プロファイルの違いを相互相関係数を計算するClusterソフトウエアで解析

逆極点の集計と逆極点図(集計表からInverseDisplayで描画)



極点測定











(100), (110), and (111) pole figures of CUBE {001}<100> ¹⁴



手引きの極点図を標準ステレオ投影図から{hkl} <uvw>の決定

複数標準ステレオ投影図から一致する投影図を見つける。回転も必要なケースもある。







極点図をすべて説明出来る投影図から 投影図の中心(Plane)と上の方向(RD) {110}<-112>が決まる。

手引きの極点図をピーク角度から{hkl}<uvw>の決定

≝ {1,0,0]8.82		[1,1,0]8.68	💶 🗖 🔀 🛃 {1,1,1}9.1	6			面間隔d	h_1 の面 $(h_1k_1l_1)$	と、面間隔 d_2 の面 $(h_2k_2l_2)$
					NDからの角 {100}極点図 {110}極点図 {110}極点図 {111}極点図 RDからの角 Wulffnetな {100}極点図 {110)極点図	度 、45度 、0,60度 、35度 度 :し:β=0.18 、該当な 、90.30度	ม่ 80,90,270 しい	_ 方:cos ø= 上	$=\frac{h_1h_2+k_1k_2+l_1l_2}{\sqrt{(h_1^2+k_1^2+l_1^2)(h_2^2+k_2^2+l_2^2)}}$
🛓 PoleHKLUVWsea	rch 2.03XT[14/03/31] by CTR			{111}極点区	、該当な	l		
Material select Cubic	les select	M			$(h_2 k_2 l_2)$				-
	lolder C:\tmp\brass					100	110	111	
-FileName									
100_chS_2.TXT File Help 1,0,0 aa	110_chS_2.TXT 111_ I.11S C:¥CTR¥work¥ angle bangle	chS_2.TXT PoleHKLUVWSearch¥P Polelevel	EAK.TXT		100	0,- 90 45 90	60	4))	
1 45 1 45 2 45 3 45	5.0 55.0 5.0 125.0 5.0 235.0 5.0 305.0 mole bapole	8.81 8.81 8.81 8.81 Polelevel			111 V	54.7	35.3 90	0 70.5 109.5	
0 90 1 30 2 30).0 0.0).0 0.0).0 70.0	8.68 7.28 3.64			210	26.6 63.4 90	18.4 50.8 71.6	39.2 75.0	
4 30 5 30 6 30).0 110.0).0 180.0).0 250.0).0 290.0	3.64 7.28 3.64 3.64			211	35.3 65.9 ¹	30. 54.7 73.2 90	19.5 61.9 90	
1,1,1 aa 0 55 1 55 2 55 3 56	angle bangle 5.0 35.0 5.0 145.0 5.0 215.0 5.0 325.0	Polelevel 9.15 9.15 9.15 9.15			221	48.2 70.5	19.5 45 76.4 90	15.8 54.7 78.9	
	///Search//7	しつ エア ズピーノ	7++		{110}	<-1	12>	が決ま	3

PoleHKLUVWSearchソフトウエアでピークサーチ

手引きの極点図をPoleHKLUVESearchソフトウエアで {hkl}<uvw>の決定



ピークサーチから方位の決定を行い、再計算極点図を表示する

結晶方位の決定

🍰 TextDispl	ay 1.115 C:¥C	TR¥work¥Pol	e HKLUVWS (earch¥RESULT	.тхт	
File Help						
1,0,0	aangle	bangle	Polelevel			
0	45.0	55.0	8.81	{110}<1-12>	»(0.0)	
1	45.0	125.0	8.81	{110}<1-12>	>(0.0)	
2	45.0	235.0	8.81	{110}<1-12>	»(0.0)	
3	45.0	305.0	8.81	{110}<1-12>	×(0.0)	
1,1,0	aangle	bangle	Polelevel			
0	90.0	0.0	8.68	{101}<52-5>	»(0.0)	{
1	30.0	0.0	7.28	{110}<1-12>	×(0.0)	{
2	30.0	70.0	3.64	{101}<52-5>	»(1.0)	{
3	30.0	110.0	3.64	{101}<52-5>	×(1.0)	{
4	30.0	180.0	7.28	{110}<1-12>	»(0.0)	{
5	30.0	250.0	3.64	{101}<52-5>	>(1.0)	{
6	30.0	290.0	3.64	{101}<52-5>	»(1.0)	{
1,1,1	aangle	bangle	Polelevel			
0	55.0	35.0	9.15	{110}<1-12>	»(0.0)	
1	55.0	145.0	9.15	{110}<1-12>	»(0.0)	
2	55.0	215.0	9.15	{110}<1-12>	»(0.0)	
3	55.0	325.0	9.15	{110}<1-12>	»(0.0)	
Result			1		1	
	{101}<52-5>	{110}<001>	{110}<1-11	> {110}<1-12	{112}<11-1>	
1,0,0	0.0	0.0	0.0	1.0	0.0	
1,1,0	0.55	0.2	0.14	1.0	0.25	
1,1,1	0.0	0.0	0.0	1.0	0.0	

再計算極点図



ODF図から結晶方位を求める



逆極点図(Direction)から結晶方位を求める



Hexagonalは3指数<->4指数表示、X軸

HexaConvert 1.09MT[17/10/31] by CTR – — ×	
File Step Help A _ X-Axis[100] ([2-1-10])	X軸は[10-10]が一般的です。
Miller Notation (3Axis Notation) \square \bigcirc \bigcirc \bigcirc \land hkl uvw	LaboTexは3指数でX軸は選択 軸の取り方でφ2角度が30度シスト
Miller Bravais Notation(4 Axis Notation)	逆極点図(一般的な表示)
Euler(p1Fp2)	Direction表示
Material select Value And	[1 1 -2 0] Max.=2.7
c/a 1.625 ψ2 0 ∨ Calc	
HexaConvert 1.09MT[17/10/31] by CTR - 🗆 ×	- 2.00
A ☑ X-Axis[100] ([2-1-10]) → B □ X-Axis[210] ([10-10]) →	[0 0 0 1] [1 0 -1 0]
MIller Notation (3Axis Notation) Image: Constraint of the second secon	LaboTexは3指数でPlane表示
- Miller Bravais Notation(4 Axis Notation) 0 v 0 v 0 v 0 1 v 2 v -1 v -1 0 v hkil uvxw	Ti-R
Euler(p1Fp2)	001
Material select Magnesium.TXT	
c/a 1.625 ψ2 0 ∨ Calc	001 100

極点測定からODF



極点図のバックグランドとrandom



バックグランドを削除したVolumeFraction計算のOtherは、random+他の方位が含まれる

測定

測定方法は材料の粒径に依存します。粒径が小さければ、どのような測定方法でも測定結果は一致します。 配向が小さい場合、十分な強度を得られる測定方法が有利になります。

X線回折測定では、回折に関係しない散乱(バックグランド)が測定される。バックグランド測定が重要になる。 測定される回折強度は、試料の吸収や、光学系のズレに影響される。

一般的な測定(Schulzの反射法、疑似集中法(RSが広い))

Schulzスリットで照射X線を制限、極点図が広い(75度)、粗大結晶粒に対応(揺動) 透過測定(Deckerの透過法、平行ビーム(DSスリット0.1mm),RSは広い)

> 極点図の外周部分の測定、測定領域が(90-θ-b)、粗大結晶粒に対応(材料の厚さ) 高分子材料など、

2D検出器(Point光学系)

微小領域測定(粗大結晶粒には不向き)

高速測定が可能

測定される極点図が狭い

大量の測定データ

近接する領域の差異評価

1D検出器

シンチレーションカンンタと同様の使い方なので、一般的な測定が可能 入射平行ビームによる極点測定

照射エリアが狭くなり、粒径の影響を受けやすい。

point照射と2D検出器組み合わせで利用

受光側に平行スリット

残留応力を含む試料測定には不向き defocus補正量が大きい

Rigaku-PANAlyticalの測定

PANalytical社の光学系





TD方向をβ=0としているので、 測定時、RD方向をビーム方向に合わせる 試料の回転方向はCWなので、 データの並びは、CCW方向である。

測定時、RD方向をミームに対し90度とし、極点図の 外側から測定を行っている。 試料の回転方法とデータの並びは同一である。

LaboTexのデータの並びはCWである。 非対称極点図の場合、ODF図がシフトするので注意が必要

極点処理

平滑化

粒径が粗い、照射エリアが狭いなど、データの凸凹の平滑化 RD補正

極点図の真上が圧延方向と一致するように回転する バックグランド削除

非干渉性散乱、蛍光、非晶質などの測定データ削除

通常、測定20角度±3degを測定

吸収補正

回折が発生する体積の変化に対する補正 Defocus補正

受光スリット部における回折線の広がり補正

規格化

random試料による強度補正であるが 試料により、全回折量が異なるケースもあるので、 1)random規格化 2)random補正+内部規格化 では2)を勧めます。

データの平滑化

粒径が粗い(照射エリアが狭い)場合、極点図の平滑化を行う。(測定時揺動出来たら最適) 平滑化で重要な事は、平滑化前と、平滑化後で極点図の相対密度変化を極力抑える。

この為には、極点図のα方向の両終端データの扱いが重要である。 従来、Savitzky-Golayによる平滑化を利用していたが、相対密度が変化しています。

CTRソフトウエアでは相対密度変化量を少なくする手法が採用されています。



RD方向



通常、RD方向に対し極点図は線対称になります。 対称になるように、極点図を回転します。

極点測定(積分強度とバックグランド)



測定は、受光側スリットを十分に拡げて積分測定 ピーク積分測定とバックグランド積分測定のスリット幅は同じ バックグランド測定の20角度は、PEAK±3deg.の位置 粒径が小さく、配向が強い場合、βscanspeedは、Maxで測定可能 パックグランド測定は1点で、peakscanspeedの1/10とし、強度変動を抑える。 粒径が大きい場合、試料を揺動し、ビームがはみ出さないDSを使う スピードは、揺動周期時間、あるいは、1/2揺動周期時間の倍数で測定

粒径の確認、θscanによるロッキングカーブ測定 鋭いピークが発生する場合、揺動する。測定されるバックグランドプロファイルを 確認し、バックグランドの修正や平滑化を行う。 本来、バックグランドは、ピーク積分強度β方向の最小値以下であるが、 ピーク積分強度も変動する。

吸収補正

X線回折は試料体積に影響を受けます。

試料が薄いと、体積が減少し、回折線に寄与する体積が減少し、回折線が減少します。 極点測定の様に試料を傾けて測定すると、回折に寄与する体積が変化しています。

この体積変化を補正します。

透過法(Decker法)

反射法(Schulz法)



μυν天测定

I= Ice^{-ut}



文献よりアルミニウムルtを求める 質量吸収係数μ/ρ(cm²/g) CuKa = 48.6 密度(g/cm³) 2.71 μt=131.7



μtによる補正量

μt=1では吸収補正は不要

試料を傾けるとプロファイルが広がる(Defocus)



無配向試料の極点測定データのβ方向の平均値をα軸でプロット、極点図の中心を0.0、極点図の外側で徐々に強度が低下 Defocus曲線は、照射X線ビーム幅、測定20角度、受光スリット幅に影響されます。通常照射X線ビーム幅は一定



Defocusプロファイル(Φ ,Intens)はWb(X線照射幅)、 θ (入射角度)、Lr(受光スリット幅)の関数である。 ゴニオ半径、Wbは装置により固定されている

JOURNAL OF APPLIED PHYSICS VOLUME 41, NUMBER 10 SEPTEMBER 1970

Defocusing for the Schulz Technique of Determining Preferred Orientation*

E. TENCRHOFF Oak Ridge National Laboratory, Oak Ridge, Tennessee 37830 (Received 16 January 1970; in final form 3 April 1970)

E.TENCKHOFF



FIG. 2. Decrease in intensity with increasing tilt angle Φ for different diffracting planes of a zirconium specimen with random orientation.



DefocusありなしRp%比較(ODFPoleFigureのValueODFVFで計算)



ODF

X Eile	Onf	PFt		loctor	ŀ	lexagon	al表示が	A-TypeのOD	F
[Outside text(Vector) CCW							
		Outside CSV(Vector) CCW	gralDat.	aboTex		L		ort (PHI1 PHI2 PHI ODF)(Hexa A	
		Inside text CCW	iles)	StandardODF			StandardODE (OD	E15 ODE15 bin)	
		*Labotex(EPF) CW	alph. T				NewODF(f1 F f2 V	alue)	•
		Stadard ODF CCW		exious			popLA (Hexa: ATy	pe)	> •
		Siemens CCW	a,b,inter	opLA			DhmsBunge (*.EO	D)	
		TexTools(txt) CCW	- E	Bunge			MTEX(f1 F f2 Value	e)	
		*TexTools(pol) CCW					MTEX(Triclinic(1/4) to Orthorhombic)	•
		TexTools(pol) CW		viuriex			MTEX(Triclinic to C	Orthorhombic)	
		*TexTools(pol)CCW-zerocut		ЛТЕХ			EBSD-OIM(f1 F f2	Value)	
		TexTools(pol)CW-zerocut		TEX			EBSD-OIM(Triclinio	to Orthorhombic)	
		*popLA(RAW)CCW					Vector		•
		popLA(RAW)CW	-				ATEX(Triclinic)		•
		StandaradODF2.5 CCW	-				ATEX(Triclinicv(1/4	I) to Orthorhombic)	•
		Bunge(PF) CCW	-	cw,ccwlt.	、極点図データの並	びで、CWはR	D->TDが時計回	り方向	
		MulTex(TD:beta=0)CCWTXT2	-	*が該当の	この博進	CCWI	Rd->TDか反時	F計万问	
		Labotex(EPF) CCW	-						
		MTEX(ASC) CCW	-	RD		RD		RD	
L L		LaboTex(PPF) CW							
		*LaboTex(PPF) ATEX CCW	-Data		\backslash				
			TD	CCW		CW	TD	MulTex	TD
			回転 ODF	云方向で非対 のX軸(A-Typ	称でODF解 e,B-Type)で	析した場 φ2角度	合、φ11 が30度シ	角度が90度ジ フトする	シフト。

ODFソフトウエアの特徴

	StandardODF	popLA	LaboTex	TexTools	MTEX
メーカ	府立大井上先生	Los Alamos	LaboSoft	Resmat	
解析法	Hermonic	WIMV, Hermonic	ADC	ADC	Hermonic
Windows	XPからWin10	Dos	XPからWin10	XPからWin10	Win1O確認
極点図	中心から	中心から80度	制限なし	制限なし	制限なし
Cubic	0	0	0	0	0
Hexagonal	<u> </u>	0	0	0	0
Tetoragonal	<u> </u>	0	0	0	0
Orthorhombic	<u> </u>	0	0	0	0
Oter	<u> </u>	<u> </u>	0	0	0
非対称解析	Orthorhombic(1/4)	Orthorhombic(ミラ−)	Triclinic	Triclinic	Triclinic
RD-TD(極点図)	<u> </u>	<u> </u>	CW(TDが右)	CCW(TDが左)	CCW(TDが左)
ODF図	0	<u> </u>	0	0	0
再計算極点図	0	-	0	0	0
逆極点図	0	<u> </u>	0	0	0
マウスカーソル強度方位	<u> </u>	<u> </u>	0	0	<u> </u>
VolumeFraction(Integral)	<u> </u>	<u> </u>	0	0	0
VolumeFraction(ModelFunction)	<u> </u>	<u> </u>	0	<u> </u>	<u> </u>
その他			Project		MATLAB
			VF%からODF図		
	XRD	XRD	XRD,EBSD	XRD,EBSD	XRD,EBSD

入力データが同じでも、計算ODFは解析方法やソフトウエアで異なります。 方位位置は同じであるが、各方位の強度が異なる傾向があります。 Hermonic < ADC,WIMV

> WIMV method: Williams method ,Imhof methodをmatthiesとVinelが結合 ADC method : Arbitrarily Defined Cells

極点図からODF解析の実践(極点図)



Random,配向極点図のバックグランドを削除し、Random極点図からdefocusプロファイルを作成し、バックグランドを削除した配向極点図を補正する

極点図データ処理(ODFPoleFigure2)

ODFPoleFigure2 3.98T[21/12/31] by CTR Init Set BGMode Measure Condition Free OverlapRevision MinimumMode Rp% Normalization
Files select ASC(RINT-PC) I11ASC 200ASC 220ASC I11ASC 200ASC 220ASC
Calcration Condition Previous Next C¥CTR¥DATA¥Aluminum-H¥111.ASC 1,1,1 Change
Backgroud delete mode SinseleMode O LowMode O HighMode O Nothing BG defocus DSH1.2mm+Schulz+RSH5mm Minimum mo Sinsothing O Minimum(α β) MinimumAverage(α)X 0.5 Trans blinds angle 30.0 Peak slit 7.0 mm BG Slit 7.0 mm PeakSlit / BGS BG Scope 80.0 deg. Set Disp α Inhibit
Ref Trans Schulz reflection method V Change Absorption coefficien 133.0 1/cm Thickness 0.2 Cm V Set 2Theta 38.5 deg. (a) 1/Kt Profile
Defocus(1) functions file C#CTR#DATA#Aluminum-H-O#Al_random#defocus#DEFOCUS_F.TXT Make defocus function files by TXT2 Files Normalization degree of a polynomial TextDisp Defocus(3) function files folder(Calc unbackdefocus) BB185mm Limit Alfa Defocus value Free(LimitValue=0.0) Defocus(2) function files folder(Calc backdefocus) DSH12mm*Schulz+RSH5mm Search minimum EqualAngleRp%(Cubic only) Image: Calc backdefocus
Smoothing for ADC OutFiles Cancel Calc Connect Cycles 2 Weight 10 Disp CTR Connect Average Average Asc MTexAse Ras TXT TXT Exit&ODF ODF After connection ValueODFVF-B ValueODFVF-A
Filemake success !! CTRHome : C: Select crystal : Cubic 21/09/01
バックグランド除去 平滑化 Defous補正 規格化 最適化Rp%指定
ValueODFVF-A(After)でRp%の確認が行える。

極点処理後、Rp%を確認し最適処理を確認する(±1.5%以内)。

バックグランド除去+規格化



バックグランド除去+defocus補正+最適化Rp%

ODFPoleFigure2ソフトウエアでは、ODF解析結果を予測し、ValueODFVFにて極点処理結果とのRp%を計算しています。 更に、最適化Rp%では、Rp%の改善をを行っています。

Defocus補正有り無し比較

ヾ゙ックグランド削<u>除+規格化</u>



ヾ゙ックグランド削除+defocus補正+規格化



Defocusなし、ありの極点図からLaboTexのVF%比較とMTEX解析結果の方位密度比較を行う

LaboTexVolumeFraction比較

	Rp%	dRp%
defocusなし	14.53	0.86
defocusあり	0.90	0.91



Defocus補正を行わないと、Rp%Errorが大きく、VFも大きく異なります。

LaboTexのVF%をCompareVolumeFractionで表示

Random方位(定量)

方位密度、1.0以下にRandom方位+Ghost+その他の方位が存在します。 ODFの格子点19X19X18の大多数がrandomと考えら場合、1.0以下にピークを形成します。



MTEX(他のODFも同様)による方位密度比較



P19の4:2:1を1:1:1に規格化して比較しています。

MTEX(他のODF)のODFをExportし、GPODFDisplayで方位を計算し、hkluvwlistDisplayで表示

Fiber解析

ODF解析結果から特定方向のプロファイル化



最大方位密度がε-Fiber上(Φ:58->62)で{1241}<014>が3.0以上を評価